

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	トータスミドル上三川		公表日	2026年 4月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	構造や広さの関係上、利用人数や活動内容によっては窮屈さを感じる場面があることが課題である。	活動内容や人数構成に応じて空間の使い方を工夫し、安全面に配慮しながら適切な環境づくりに努めていく。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員の配置数は適切で男女のバランスも取ることができているように思える。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		教室の外が段差のないつくりとなっており、バリアフリーを意識して作りとなっている。視覚優位の利用者様が多い為、無駄な掲示物はおかない工夫がされている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃は毎日行っており、常にきれいな状態が保てるように職員間で協力し合いながら意識している。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パテーション等を使用し、利用者様が息つけるような環境を作っている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎月その月どんな目標でどんなことを行いたいかを共有し目標設定を行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	保護者様の意向には常に耳を傾け、評価表以外にも送迎の際に密にコミュニケーションを取る機会を作っている。	いただいたご意見については職員間で共有し、可能なものから随時業務改善に反映している。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議や日々の打合せの中で意見交換の機会を設け、出された意見を業務改善につなげている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在、第三者による外部評価は実施できていないが、今後は導入について検討し、客観的な視点を業務改善に活かせる体制づくりを目指していく。	・自己評価や保護者からの意見を踏まえ、職員会議等で検討を行い、具体的な改善策を実施している。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修への参加や法人内研修の実施により、職員の資質向上に努めている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを適切に作成し、必要な情報を公表している	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントを適切に実施し、本人・保護者のニーズを踏まえた計画を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に、関係職員が協議の上で計画を作成している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画内容は職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールや日々の観察を通して、こどもの状況を継続的に把握している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインを踏まえ、本人支援・家族支援・移行支援・地域連携の視点を取り入れた計画を作成している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムは職員間で話し合いながら立案している	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動内容が固定化しないよう、定期的に見直しや工夫を行っている。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を状況に応じて組み合わせ支援している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に打合せを行い、役割分担や支援内容を確認している。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に振り返りを行い、気づきを共有している。	
22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録を徹底し、支援の改善に活用している		
23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、必要に応じて計画を見直ししている。		
24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「4つの基本活動」を意識し、複数の視点を取り入れた支援を行っている。		
25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもが選択できる場面を設け、自己決定を尊重した支援を行っている。		
26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		関係機関会議には、こどもの状況を把握している職員が参加している。		

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	現時点では十分な連携体制の構築には至っていないが、必要に応じて関係機関との連絡調整を行い、今後さらに連携強化に努めていく。	関係機関との情報共有や連絡調整を随時行い、得られた情報を業務改善に活かしながら、後は連携体制のさらなる充実を図る。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と情報共有や連絡調整を適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	現状では継続的な情報共有の仕組みは整っていないが、移行期を中心に情報共有の機会を設けられるよう体制整備を進めていく。	移行期に限らず、得られた情報を子ども一人ひとりの支援や業務改善に活かせる体制づくりに努めている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業後の移行時には、必要な情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	現在、定期的な連携や助言の機会は設けられていないが、今後は必要に応じて相談や研修参加を検討していく。	必要に応じて相談や研修への参加を検討し、職員の支援力向上に活かせる体制づくりに努めている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域の児童館や他機関との交流の機会を設けるよう努めている。	子どもたちが多様な活動に参加できる環境づくりを心がけている。
	33	（自立支援）協議会等積極的に参加しているか。		○	現在は積極的な参加には至っていないが、今後は情報収集や地域連携の観点から参加を検討していく。	地域の情報収集や連携強化の観点から、今後参加を検討し、業務改善や支援の質向上に活かしていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日頃から保護者と情報共有を行い、共通理解を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族支援の観点から、必要な情報提供や研修機会の案内を行っている。	
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		重要事項について丁寧に説明している。
37		放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画作成時には、保護者の意向を確認している。	
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画内容を説明し、同意を得ている。	
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		子育て等の相談に応じ、必要な助言を行っている。	
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者同士の交流機会を設けるよう努めている。	
41		こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応体制を整備し、迅速な対応に努めている。	
42		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNS等を活用し、情報発信を行っている。	
43		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理を徹底している。	
44		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特性に配慮し、分かりやすい情報伝達を心がけている。	
45		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域住民を招いた行事等は実施していないが、今後は地域とのつながりを意識した取組を検討していく。	今後は行事への招待や情報発信などを検討し、得られた意見や反応を事業運営の改善や地域連携強化に活かしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、定期的に避難訓練等を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に健康状態や服薬状況を確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーについては医師の指示に基づき対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、安全管理を徹底している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全に関する取組を保護者へ周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを共有し、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止のための研修を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束については組織的に判断し、事前説明と計画への明記を行っている。	